

★2面で2019～2020年度の「休眠預金」の状況をレポート!

第39号

新型コロナの影響を受けているNPOに「休眠預金」で助成拡大! 新たに「緊急支援枠」追加か? その時すぐに対応できる準備を!

休眠預金を活用した民間公益活動の助成は、内閣府の所管で制度化され2019年度からすでに始まっています。その内閣府が去る5月20日、この制度を活用した「新型コロナウイルス対応緊急支援について」「休眠預金等活用審議会」に諮りました。報道によれば、収入が減っている非営利組織(NPO)は「持続化給付金」の対象になりにくいから、休眠預金を活用して助成する枠を拡大して公募する方向だということです。

「前年同月比▲50%以上」はハードルが高すぎる。「持続化給付金」に代わる助成を期待したいところ。

・「NEWS第37号」「NEWS第38号」で「持続化給付金」をレポートしてきましたが、「▲50%以上は結構ハードルが高い」の声が多く聞かれました。そんな時にネットで確認できたのが「新型コロナで苦境のNPO「休眠預金」での助成拡大へ」の報道でした。

・「休眠預金」の民間の公益活動への活用は、2016年の

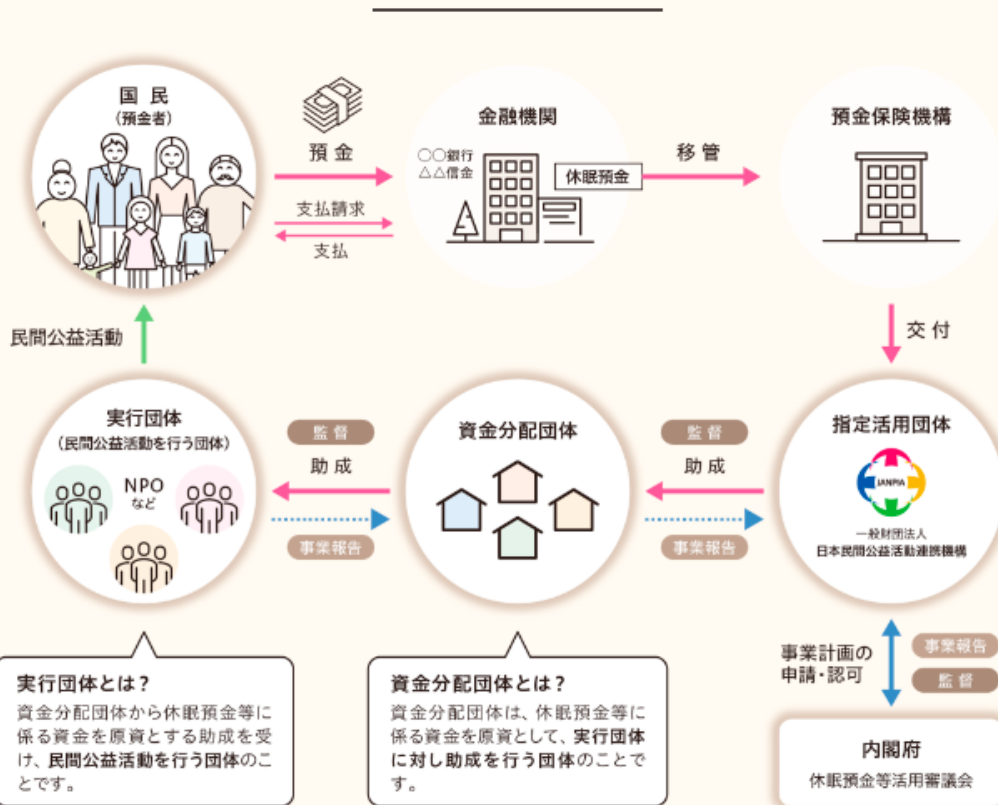
休眠預金活用法の成立を経て2019年度からすでに始まっています(左図参照)。「支援センター」としてもこの制度はフォローしていましたが2019年度は「東北ブロックの資金分配団体」がなかったこと、「社会的インパクト評価」といった新しい評価手法が「実行団体」にも求められておりこれをクリアする難しさが壁になり紹介してきませんでした。

・でも苦境のNPOを休眠預金で助成となれば話は別ですから、あらためてレポートすることとしました。

・確かに内閣府のHPで5月20日「休眠預金等活用審議会」が開催されていたのが確認できました。そこには議事＝休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応緊急支援についてとあるだけでなく、資料として「緊急支援の概要」が提出されておりそこには(後日公表予定)の文字もありました。別のネット報道には「助成金を支給する方針を固めた」「来月中の支給開始を目指す」とあり大いに期待したいところです。

・この休眠預金等の活用は「一般財団法人日本民間公益活動連携機構」(JANPIA)が「指定活用団体」として制度運用を担っています。左の図と表並びに2面の図はそのJANPIAのHPからダウンロードしました。
[\(https://www.janpia.or.jp/\)](https://www.janpia.or.jp/)

休眠預金等の活用の流れ



実行団体とは?

資金分配団体から休眠預金等に係る資金を原資とする助成を受け、民間公益活動を行う団体のことです。

資金分配団体とは?

資金分配団体は、休眠預金等に係る資金を原資として、実行団体に対し助成を行う団体のことです。

■タイプII (1団体当りの申請額上限300万円)			
(NPO) 旭川NPOサポートセンター【旭川】 http://www.potato.ne.jp/~asahin/po/	旭川市	● 空き家の処分に伴う家財整理や、管理などを、一般就労が困難な生活困窮者の仕事として確立し、将来の自立を支援する仕組みを構築する	221万円 【3か年】
(NPO) かわのもり「ここから実験室」【鹿追町】	北海道鹿追町	● 鹿追町の子どもの対象に、身体づくり、地域と子どもを繋げかつ経験の幅を広げるアート・クック、保護者同士の交流用のカフェ、個別相談支援を実施 ● 地域活性化につながる、「暮らしたい地域での子供たちの健やかな成長」を、地域の仲間たちと応援し伴走支援していく	222万円 【3か年】
(一社) 国際交流団体ブロック【七飯町】	北海道七飯町、函館市、北斗市	● 語学を通じ、子供達の可能性を広げ、グローバルな感覚を養う場を提供 ● 遊びやコミュニケーションの中から楽しく自然に英語を習得できるメソッドを使用したプログラムで子供たちに英語に触れあう機会を提供	300万円 【3か年】
(一社) ちくだいKIP【帯広】 https://chikudaiqip.wixsite.com/home	帯広市	● 多様な「ひととの繋がり」で自働した子供を育成する次世代型ヘルスケア体験コミュニティを既存の公共施設を利用して構築 ● 運動プログラムとコミュニティ育成のパッケージ化により会費の安価な体験コミュニティの下支えを行いたい	300万円 【3か年】
(NPO) 飛んでけ車いすの会【札幌】 http://tondeke.org/	北海道札幌市、千歳市、余市町	● 社会的弱者(引きこもり、不登校、生活困窮者、障がい者、外国人労働者など)に、熟練者による車いす整備技術を伝承(車いすの学校)、就労を支援 ● 「車いすの学校」には、専門家による健康相談、家族が集う場の提供などを合わせて行い就労支援をサポートする	300万円 【3か年】

■上の図は休眠預金活用の流れ。「指定活用団体が資金分配団体を公募」し「資金分配団体が実行団体を公募」する。■下の図表は「北海道総合研究調査会」が選定した実行団体の一部。

「休眠預金」は社会課題解決に取り組む NPO を助成することで、「子ども若者支援」「生活困難者支援」「地域支援」実現を目指す。

2019 年度は「22 資金分配団体 24 事業」を採択。助成総額 29.8 億円で「実行団体」を公募選定。

・「休眠預金」の目標は民間（NPO 等）公益活動の助成ですが、具体的には「優先的に解決すべき社会の諸課題」が設定されています（下図参照）。これを踏まえ「JANPIA」は昨年 6～7 月「資金分配団体」を公募。応募があった 49 団体 67 事業から外部審査委員の審査を経て「22 団体 24 事業」を選定、選ばれた資金分配団体が「実行団体」を公募・選定して事業をスタートさせ、JANPIA によると今年 3 月末の時点で、5 資金分配団体が 28 の実行団体の選定を公表しているということです。

助成総額 33 億円の 2020 年度計画に対し新たに、「緊急支援枠」を設ける等、追加策が期待できる。

・JANPIA の HP では 3 月 30 日付で 2020 年度の事業計画が認可を受けたと報告の上、事業計画・収支予算を発表しています。それによると助成総額は昨年度より多い 33 億円。「子ども若者支援」「生活困難者支援」「地域づくり支援」の 3 分野で課題解決を目指す団体を対象に助成する基本は変わっていません。報道によると 5 月 20 日の審議会では新たに「緊急支援枠」を設ける他、審査期間を短縮するなど要件を緩和し早急な支援を目指すということです。詳細が公表され次第リポートします。

●● 優先的に解決すべき社会の諸課題 ●●

以下の 7 つの項目を「優先的に取り組むべき社会の諸課題」とし、優先的に取り組みます。助成にあたっては、これらの課題の解決を目指す案件（複数該当も可）を優先しますが、社会的課題の解決において多大な影響や効果のあるものの申請も可能です。

1

子ども及び若者の支援に係る活動

1. 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
2. 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
3. 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援

2

日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に関する活動

1. 働くことが困難な人への支援
2. 社会的孤立や差別の解消に向けた支援

3

地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に関する活動

1. 地域の働く場づくりの支援
2. 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援



「支援センター」は 5 月 20 日から「通常業務を再開」。土・日・祝日以外はお気軽にどうぞ！

・「臨時休館」が続き、しばらくご不便をお掛けしてきましたが 5 月 20 日（水）から「支援センター」は通常通りの業務を再開しました。

・土曜日、日曜日、祝日の休館日を除く月曜日から金曜日ならいつでもご相談・お問い合わせいただけます。お気軽にご利用ください。ただし「マスク着用」「手指消毒」「ソーシャルディスタンス（1～2mの間隔）」を守り新型コロナウイルス感染防止に努めますので、ご協力のほどをあらためてお願い申し上げます。

伊達市市民活動支援センター

電話番号：024-583-2800 FAX：024-583-2820

○開館：毎週・月～金曜（土・日・祝日・休館）

伊達ふれあいセンター 3 階まで

午前 9 時～午後 6 時 mail bz004492@date-civilsupport.jp

